



「むずかしい問題もできた」

校長 神田 敏之

3、4年生を対象にした放課後学び場事業（学習支援教室）が始まりました。行った子どもに話を聞くと、難しい問題にも挑戦したそうです。8月の試行を経て、9月から月一回で行うことにしました。子どもたちから愛称を募集し、それを組み合わせて「あさひなチャレンジ広場（チャレ広）」となりました。会場は、湘南八景自治会のご協力をいただき、自治会館の会議室をお借りしています。

このチャレ広の目的の一つは、自分で学習の仕方を学ぶことにあります。普段の子どもたちは、帰宅後に家で宿題やその他の学習に取り組んでいます。遊びに行く前や夕食前など、自分で決めた時間に学習を始めるような習慣をつけたいと考えています。決められた宿題以外に自分の興味に合わせて学習を進めていく力を身に付けられるようにしたいとも考えています。

このチャレ広では、約1時間の学習時間の中で宿題や自分で用意した課題を行います。前の学年の復習をしたい場合には、問題集も用意してあるのでそれに取り組めます。地域ボランティア、学生ボランティアも来てくださっているのだからわからないことがあれば教えてもらえます。運営は、学校・地域コーディネーターの方が中心になって行っています。今年度の実施の状況を見ながら、次年度も継続していこうと考えています。

自ら学習を進めるということを経験の仕方にたとえてみたいと思います。旅行の目的や考え方の違いによって、次のような旅行の仕方があります。一つは、添乗員が付いた旅行ツアー、もう一つが個人で計画をしていく旅行です。

旅行ツアーの場合は、先々で添乗員が指示をしてくれるので、道に迷うことはありません。また、見どころなどを説明してくれるので参加者の満足度は上がります。これが一昔前の学習のイメージです。講義型の授業が中心で、大事なところは「ここを覚えておくように」と指示されます。テストの前には、暗記を中心にした学習をします。それに対して個人の旅行は、チケットの手配などすべて自分で準備が必要です。慣れた人だったら、現地に行ってから宿を探すという人もいます。自分の興味に応じて臨機応変に計画を変えることができます。わからないことがあったら近くの人に尋ね、地元の人しか知らないような名店や名所を教えてもらうことができることもあります。これが今求められている学習につながる姿です。自ら考え、判断し、時には友達との対話の中から課題を解決していきます。

自ら考え、判断し、対話の中で問題解決をしていく姿は、リーダー・イン・ミーも含めた学校の教育活動全体で育てていきます。始めは、具体的に学習の仕方を教える場面もあると思いますが、だんだんに自分で学習の仕方をつくっていけるようになっていきます。ご家庭でも自ら学習する姿勢を育てるように励ましをお願いします。